

1. 生徒の歴史認識をより開かれたものにするためには、教師は自ら選択した理論を明示し、その妥当性を生徒自身に批判的に吟味・検証させる過程として、授業を組織しなければならない

2. 前近代史に関しては文明固有の中範囲理論が、また近現代史に関しては国際関係の中範囲理論が、教育内容として最も有効であろう

3. 教育内容としての歴史理論は、基本的に構造史の理論でなければならない

4. 生徒の既存の認識を揺さぶり、知的好奇心を刺激して探究を促すような事例が求められるのである。

5. 理論を単元の到達目標として位置づけるには、命題の形で構造化することが必要である。

6. 単元は、これらの知識(知識の構造)を生徒が批判的に学習していく過程として構成されねばならない。

7. 学問的理論体系を事例と探究の論理によって吟味し、教育内容としての理論に再構成していくというものである。